

みんなでつくる中心市街地にぎわい創出拠点検討委員会の概要報告(総括)

2025 年 9 月 24 日(水)14:00～、第 2 回の「みんなでつくる中心市街地にぎわい創出拠点検討委員会」が開催された。概要(総括)は以下の通り。

【検討総括】

(1)拠点整備の位置づけと拠点の役割の明確化について

- 大前提として対象となる拠点における「にぎわい」のイメージを明確にしておく必要がある。討議の結果、「様々な交流による“にぎわい”を生み出す拠点となること」を基本とし、当該拠点での交流の中から経済的な活動が生まれ広がることを通じて、周辺地域への商業・経済活動が誘発されることに期待したい。
- また、中心市街地の 3 つの拠点での機能分担を明確にし、連携を通じて、中心市街地全体が歩いて楽しめるまちづくり(ウォーカブルなまちづくり)が展開されることに期待したい。さらに、現図書館の跡地についてもにぎわいの一助となるように利用活用方法の研究に努めてほしい。

(2)図書館機能について(※現時点では蔵書数等について決定していない状況)

- 新しく整備される図書館については、市民が近場の図書館ではなくわざわざ訪れたいと思わせる特徴的な図書館となるよう検討を深めていただきたい。
- また、定休日や開館時間、特徴的な本の配置等の運営面での工夫に加え、ゆとりのある開架スペース、エントランスの演出等のデザイン的な特徴づけ等にも工夫を講じられたい。

(3)織物産業伝承機能について

- 明治館との展示の分担と連携を図るとともに、銘仙を基調としつつも、織物とも関わる産業、織物を礎とする産業等、市内産業・企業の歩み等の展示等、展示内容についての検討も深めていただきたい。

(4)創業・インキュベーション機能について

- 市民のニーズを想定すると、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスの創出への支援が期待される。インキュベーション機能として、初動期の支援としての設備・装置設置やコーディネーターによる支援や運営形式も含めて、当該拠点での整備イメージをさらに研究されたい。
- また、チャレンジショップ等の自走できる仕組みや空間づくり等への展開が中心市街地の中で準備されることに期待したい。

(5)駐車場・広場について

- 駐車場から“にぎわい”が生まれることはない。そのため広場空間を確保すべく配慮されるとともに、近接地の広場との一体的な活用が可能となるように配慮に期待したい。
- 駐車場の運営についても、図書館来訪者用の駐車場としての限定的な利用だけでなく多様な利用を想定するとともに、料金徴収等についても研究を深めていただきたい。

1. 現伊勢崎市図書館との施設規模の比較表

■施設規模の比較表(面積、蔵書冊数等)

		現伊勢崎市図書館	新伊勢崎市図書館(公民複合施設)		
			蔵書30万冊 を仮定した場合 ※合築・分棟パターン共通	蔵書35万冊 を仮定した場合 ※合築・分棟パターン共通	蔵書40万冊 を仮定した場合 ※合築・分棟パターン共通
敷地面積		—	9,203㎡	9,203㎡	9,203㎡
延床面積		2,762㎡ ※共用部分を含む	8,770㎡ ※共用部分を含む	9,340㎡ ※共用部分を含む	9,770㎡ ※共用部分を含む
蔵書冊数 (開架・閉架合計)		約30万冊 開架:約12万冊 閉架:約18万冊	約30万冊 開架:約15万冊 閉架:約15万冊	約35万冊 開架:約17万5千冊 閉架:約17万5千冊	約40万冊 開架:約20万冊 閉架:約20万冊
各機能 の面積	公共機能	—	4,900㎡ ※専用部分のみ	5,300㎡ ※専用部分のみ	5,600㎡ ※専用部分のみ
	民間機能	—	780㎡ ※専用部分のみ	780㎡ ※専用部分のみ	780㎡ ※専用部分のみ
	織物産業 伝承機能	—	460㎡ ※専用部分のみ	460㎡ ※専用部分のみ	460㎡ ※専用部分のみ
駐車場		90台	約220台	約220台	約220台

2. 公民複合施設等の配置イメージ(合築パターン)

■配置イメージ図(合築パターン)

